

北海道支部通信

<https://www.facebook.com/JAChokkaidoYouth>

[事務局] 〒003-0026 札幌市白石区本通1丁目南2-38 [事務局長] 井田雅之

支部創立60周年記念 東北・北海道地区集会、有珠・洞爺で7月開催

北海道支部創立60周年を記念して「第38回東北・北海道地区集会」を、2000年の噴火から四半世紀を迎える有珠山エリア・洞爺湖温泉で7月に開きます。同集会の北海道での開催は、2015年(札幌・定山渓)以来10年ぶりとなります。

東北6支部と本部など道外からの参加者を受け入れる関係で、北海道支部の参加者はスタッフ含めて最大30人に限定して先行募集し、定員に達し次第、締め切る予定ですので、お早めにお申し込みください(最終締め切り4月末)。

2000年噴火から25年を迎える有珠山

有珠山は20世紀以降、20~30年に一回の割合で計4回噴火を繰り返しており、次の噴火がいつ起きてもおかしくない周期に入っています。このエリアの住民の火山との共生の歴史や、噴火の遺産と教訓を語り継ぐ「洞

2000年
噴火時の
新聞紙面〈上〉昭和新山=■コース 〈左下〉有珠山火口原=▲コース
〈右下〉国道230号跡=□コース

爺湖有珠火山マイスター」制度など、火山防災最前線の今について知っていただく機会にもすべく、7月11日(金曜)には記念講演と懇親会を開き、翌12日(土曜)は、すべて現在立ち入り禁止や規制がかかっているエリアを含む3コースを、特別に許可を得て安全に十分配慮しながら歩く登山とハイクを予定しています。

11日の記念講演は洞爺湖文化センターを会場に、2000年噴火で被災した温泉旅館の女将で(2面に続く)

北海道支部創立60周年記念
第38回東北・北海道地区集会

【日時】7月11日(金)~12日(土)

【会場】洞爺観光ホテル・洞爺湖文化センター(洞爺湖町)

【記念講演】「有珠山と私」川南恵美子
(洞爺湖有珠火山マイスター事務局長)

【交流登山】有珠山・昭和新山・火山災害遺構巡り

(1面の続き)「NPO法人洞爺湖有珠火山マイスターネットワーク」理事、洞爺湖有珠火山マイスター事務局長を務める川南恵美子さんに「有珠山と私」という演題で依頼しています。講演後は、2000年噴火の災害遺構の一部や、洞爺湖ビジャーセンター・火山科学館、北海道洞爺湖サミット記念館などを見学し、洞爺観光ホテルの懇親会場に移動して、道外からの参加者を交えて懇親したいと思います。

12日は、洞爺観光ホテルからバスで移動し、**A** 1977年噴火の現場である有珠山火口原～外輪山～有珠登山道(4～4.5時間)、**B** 1943～45年噴火の現場である昭和新山往復(三松正夫記念館でのレクチャー受講含めて4時間)、**C** 2000年噴火の現場である西山山麓の災害遺構巡り(2.5～3時間)の3パーティーに分かれて、火山マイスターから解説を受けながら歩き、洞爺観光ホテル前に戻って12時～14時めどで解散というスケジュールです。

東北ほか各地から100人規模参加予定

今回の集会は、東北6支部と北海道支部の7支部が毎年持ち回りでそれぞれの地元の山岳地において開催している懇親会と交流登山のイベントに、北海道支部の創立60周年行事を加味した2日間です。道外からも相当数の参加者が見込まれ、全体で100人規模の参加者を想定しており、ぜひ道外からの参加者と交遊する機会にしてもらえればと願っています。支部の皆さんにはホスト役として、道外参加者に接していただければありがたいです。全体の参加者が確定する6月以降、具体的にお

【目次】

- 北海道支部忘年会 4
- 日本山岳会年次晚餐会に参加 4
- 自然保護全国集会に参加 5
- 山行報告 6 - 9
- 北海道支部総会案内 10
- デナリ大縦走 伝説のルート初踏破報告会 11
- スケッチクラブ紙上展 12



願いすることもあるかもしれませんので、なにとぞよろしくお願いいたします。

一人当たりの参加費(宿泊費、夕朝食・懇親会費、12日の行動食代、バスチャーター代、ガイド代など)は、2万円程度と概算しています。参加希望の方は、黒川までご連絡ください。

【申し込み・問い合わせ先】

黒川伸一

メモ

有珠山エリアの火山と噴火

洞爺湖は約11万年前の大噴火の跡・カルデラ湖に水が溜まつたもので、約2万～1.5万年前に、湖の南側の隣接地で何度も噴火が起きて有珠山が誕生した。その後は静穏な時期が長く続いて人々が定住し、縄文文化やアイヌ文化が栄えたが、1663年以降、再び噴火を繰り返すようになった。

20世紀以降に限ると、①明治新山(よそみやま)と洞爺湖温泉が誕生した1910年(明治43年)の山麓噴火、②昭和新山が誕生した1943年(昭和18年)～45年(同20年)の山麓噴火、③有珠新山が誕生した1977年(昭和52年)の山頂噴火、④洞爺湖温泉側脇で噴火して60余りの火口が出来た2000年(平成12年)の山麓噴火の4回を数える。

2000年噴火では、国道や高速道路や町道などのインフラ、工場や集合住宅、住宅などが大きな被害を受けたが、直前の避難行動が功を奏し、1万6000人が4ヶ月間の避難生活を強いられたものの、人的被害はゼロだった。

ヤマテン猪熊隆之さん講師に「山の天気ライブ授業」

黒川伸一

国内唯一の山岳気象専門会社「ヤマテン」の社長で山岳気象予報士の草分け、日本山岳会会員でもある猪熊隆之さんを講師とする「山の天気ライブ授業」を、北海道支部の公益事業として2024年10月26日、27日に開催した。この「授業」は日本山岳会120周年記念事業の一環にも位置づけられ、26日に札幌・りんゆうホールで開いた机上學習に71人、翌27日に手稲山で実施した観天望気のフィールドワークには50人が参加、山岳気象の基礎知識と実技を学んだ。

●机上學習 10月26日 りんゆうホール

猪熊さんは「登山ルートによる気象リスクの違い」を概説し、「気象遭難を防ぐために」上昇気流、風向、雲、天気図などから今後の気象変化を予測することの重要性を説いた(写真左下)。北海道の気象遭難のデータや過去の気象遭難事例も示しながら、遭難に直結する低体温症への備えの大切さを強調。特に、山に入る前の天気図読みのコツとリスク想定、引き返しポイントやタイムリミットの想定とともに、登山中に行う観天望気のポイント、落雷や局地豪雨などの天候変化に遭遇した時の対処方法などを具体的に示した。



夏山納め・冬山始め懇親会に16人

夏山シーズンが終わって、冬山に向かう前の11月23日、「夏山納め・冬山始め懇親会」を白石ルームで開き、16人が懇親を深めました。谷口美咲会員、藤木俊三前支部長が、食材の買い出し、調理の中心となってください、その手料理に話が弾みました。準備や後片付けなどを手伝っていただいた皆さん、ありがとうございました。

この懇親会時にはルームのボイラーが故障していて、暖房が効かない状況が続いていましたが、大家である秀岳荘の好意でボイラーの修理を行っていただき、冬でも暖かく過ごせるようになりました。今後もいろいろな集まりなどにご活用ください。



●フィールドワーク 10月27日 手稲山

猪熊さんは手稲山のスキー場コースを参加者とともにゆっくり歩きながら(写真右上)、前日の机上學習を踏まえて、随所で立ち止まり、雲や風向などを観察しながら、このあとの天気変化を解説(写真右中)。この日は、標高を上げるにしたがって多種多様な雲が出現し、観天望気の解説も多彩に及んだ。山頂では、参加者とともに昼食をとりながら懇親を深めた。

黒川伸一



2024年度 日本山岳会北海道支部忘年会

2024年12月14日16時30分から、札幌・すすきのの東急REIホテル「SOUTHWEST」にて「2024年度日本山岳会北海道支部忘年会」が開催され、26名の会員・会友が集まりました。

忘年会は清水義浩会員の司会で進行し、黒川支部長の挨拶に続き、特別参加の野村良太会員の発声で乾杯をして（写真左下）、開宴となりました。

野村会員らのスピーチの後、芳賀孝郎・淳子夫妻が、紙芝居『アルバータ山のピッケルものがたり』を披露。これは、淳子会員のお父上・故三田幸夫氏によるカナダ・アルバータ峰初登頂の際に山頂に残されたピッケルの数奇な運命を描いた淳子会員の絵本をもとに制作されたもの。2025年がアルバータ登頂100周年にあたることもあっての披露となり、淳子会員自身の朗読に、孝郎会員が解説を織り交ぜる形での進行となりました（写真右上）。

また11月に出版されたばかりの野村良太会員の著書

『「幸せ」を背負って 積雪期単独北海道分水嶺縦断記』

の即売サイン会も行われ、大いに盛り上りました。また例年同様、会場入口ではスケッチクラブの作品の展示が行われ、熱心に見入る参加者の姿がありました。

○参加者 荒谷雅子、市毛三朗、一鐵巖、今田美知子、金子由美子、北川麻利子、久保田優一、黒川伸一、清水義浩、銭亀三佐子、竹崎良子、田中健、谷口美咲、中沢友佑、波田初子、新井田幸子、野村良太、芳賀淳子、芳賀孝郎、橋本一郎、長谷川恵美子、畠山廸子、平田健三、藤木俊三、八木橋貞美、和田マサコ



日本山岳会年次晚餐会に参加して

12月7日（土）、東京・新宿の京王プラザホテルで日本山岳会の晚餐会が開かれました。札幌は雪景色でしたが、新宿はイチョウの黄葉が素晴らしかったです。

晚餐会の前には以下の4つの講演が行われました。

第1部 グレート・ヒマラヤ・トラバース 6th 報告（重廣恒夫、吉井修、飯田邦幸、中村三佳）

第2部 秩父宮記念山岳賞受賞記念講演「私のヒマラヤ山脈形成史の研究」（京都大学名誉教授・酒井治孝）

第3部 秩父宮記念山岳賞受賞記念講演「蘇った神の鳥 雷鳥」（信州大学名誉教授・中村浩志）

第4部 「夜の山に抱かれて撮る山岳夜景」（山岳写真家・菊池哲男）

天皇陛下もご臨席されて、熱心にメモをとりながら聞いておられました。陛下は毎年、晚餐会を楽しみにしておられます。今回は講演会のみのご出席でした。

全国から320名ほどが出席した晚餐会では、中島健郎さんはじめ、今年亡くなられた物故会員70名に黙祷。そして、50年にわたり日本山岳会に在籍した令和6年度の新永年会員の方々が紹介されました（写真）。北海道支部からは、小野有五さん、蓬田三枝子さん、柳田



涼子さんの3名が新たに永年会員になりました。また、当日出席していた18名の新入会員、10月にヒマラヤの未踏峰ブンギに初登頂した学生部の遠征隊員、ヒマラヤキャンプの隊員もそれぞれに紹介されました。

乾杯のあと、全国の各支部から集まった会員が、山の名前のついた39のテーブルにわかつて、皆さん、楽しく談笑。晚餐会の後、藤木前支部長と私は47階の2次会会場に移動し、ライトアップされたスカイツリーなど新宿からの素晴らしい夜景を見ながら、また皆さんと楽しく談笑しました。

清水義浩

田中健

自然保護全国集会2024に参加し活動報告

小松理恵子

2024年11月3日（土）、4日（日）に東京・新宿で開催された2024年度自然保護全国集会に、支部の自然保護担当役員として参加してきました。

今回も前年に続き日本山岳会自然保護委員会（本部）の主催で行われ、初日はTKP新宿カンファレンスセンターで基調講演と各支部による活動報告、2日目は新宿御苑でフィールドスタディを実施。本部・首都圏・9支部より31人の参加者が集まりました。

●基調講演と各支部の報告 11月3日

基調講演では「雪氷圏の生物と気候変動の影響」をテーマに、千葉大学理学部地球科学科の竹内望教授が講演されました。雪山登山で見かける、赤く染まった雪面が藻類による現象であることや、セッケイカワゲラという夏眠・冬活動型の独特的な生態をもつ昆虫の話など、普段の自然観察では得られない知見が多数紹介され、非常に興味深い内容でした。

北海道支部からは、例年実施している大雪山高山植物パトロール（花パト）と美瑛富士避難小屋の携帯トイレブース点検・清掃活動について私が報告しました。

●新宿御苑でのフィールドスタディ 11月4日（写真）

「都市に暮らす人々が求める自然とは—新宿御苑に学ぶ」をテーマに実施されました。実際に御苑の菊花壇に携わっている池田理事と御苑の歴史に詳しい久保田委員から約2時間にわたって、開催中の菊花壇展示を含め、貴重な植物や歴史的背景について丁寧に解説して頂きました。



した。普段何気なく通り過ぎていた新宿御苑の内部には、日本の高度な美意識と園芸技術が凝縮されており、大変感銘を受けました。また改めて訪問し、さらに理解を深めたいと感じています。

北海道山岳団体交流会「山！オール北海道交流会」開催

井田雅之

例年11月開催の「北海道山岳団体交流会」を、2024年は日本山岳会北海道支部の幹事により11月27日に札幌市中央区のネストホテルにて開催しました。

2009年に6団体の参加で始まり、2023年の第14回は10団体の参加で開催された「北海道山岳団体交流会」。2024年は加盟6団体で「札幌登山道整備連絡協議会」を立ち上げて札幌岳・空沼岳縦走路の笹刈りを実施し9月に開通させたこともあり、より多くの団体に参加を呼び掛ける機運が盛り上り、第15回は、新規3団体を加えて計13団体72名の参加となり、「山！オール北海道交流会」と銘打っての開催となりました。

黒川伸一支部長の挨拶、そして芳賀孝郎会員の発声による乾杯で交流会がスタートしました。まず、新規参加の「北大山岳館」「ユニバーサルクライミングサークルえぞモンキー」「札幌登山道整備隊」の3団体の紹介とあいさつがあり、引き続き「札幌岳空沼岳縦走路整備」



の報告、「ウインタークライマーーズミーティング17」の案内と続き、最後は各団体からの挨拶、活動報告が行われました。

最後は次回幹事の北海道山岳ガイド協会の宮下会長の乾杯にてお開きとなりました。

○参加者 黒川伸一、荒田孝司、井田雅之、小野浩二、齊藤宣明、清水義浩、芳賀孝郎、橋本一郎、藤木俊三

上ホロカメットク山周辺 氷雪訓練

2024年12月7日-8日【氷雪】田中健

12月7日、8日の両日、十勝連峰の上ホロカメットク山・安政火口周辺で、14人が参加して毎年恒例の氷雪訓練を行いました。

この週末は冬型の気圧配置となって天候が安定せず、予定していたカリキュラムをすべて消化することはできませんでしたが、7日はピッケル、アイゼンでの歩行訓練（写真上）やコンティニュアスのロープ操作の説明、8日はスタンディング・アックス・ビレイ（写真下）と滑落停止の訓練を実施し、参加者は真剣に取り組んでいました。

数年前に、それまでの11月下旬から12月上旬に開催時期を変更しましたが、それでも、今年などはかなり雪が少なく、あまり訓練にならないほど。さらにこの時期は、例年天候が安定せず、予定の訓練内容をこなせないことが多くなってきました。今後は開催時期を春にするなどの検討が必要になってきているようです。

○参加者 CL 後藤幸治、CL 斎藤幸市、SL 名和田豊、SL 佐藤精久、SL 田中健、黒川伸一、今芳文、酒井史明、佐藤正倫、高尾美緒、三浦一恵、山崎邦子、横山諒平、大島聰子



盤渓山スノーハイキング

2024年12月25日【スノーハイク】藤木俊三

今季のスノーシューハイキング第一弾は、クリスマスの日に札幌の盤渓山に登りました。砥石山の北東にある盤渓山は、ピークも登山道も中央区の区域にあります。標高は604mですが、山頂に視界を遮るような高い木などが多く、特に北東側は札幌の市街地も良く見える、展望の山です。

午前9時半前に登山口の市民の森駐車場に集合。本来ならスノーシューハイキングをはいて登るところですが、雪が少なく踏み跡もしっかりついているため、軽アイゼンやスパイク付き長靴で登りました。

9時40分に出発し、妙福寺に通じる車道を500mほど進んで、あまり目立たない登山口の目印があるカーブから、道を離れて斜面を少し下って小沢を渡り、尾根に取り付けます。広葉樹主体の樹林の中は笹が出て雪の少なさを実感します。

それほど急なところもなく、天気にも恵まれて順調に登り、11時20分ごろ頂上に着きました。手前に藻岩山、その左には札幌中心部のビル街が、さらに左に目を転じると石狩湾や手稻山まで、遮るものなく見ることができました。

山頂では全員で記念写真を撮り（写真）、昼食を食べて12時に下山開始、帰りは、登りとは反対側の尾根を下りました。

ところどころに、樹齢を重ねたウダイカンバやハリギリ、ミズナラの大木が残っていてツリーウォッティングも楽しいコースでした。午後1時20分に無事駐車場に戻り解散となりました。

○参加者 L 藤木俊三、荒田孝司、今田美知子、大畠博子、金子由美子、神埜和之、北川麻利子、小松理恵子、平田健三、藤野和男、藤原千恵、鈴木エイ子、藤原仁、山水秀美



余市天狗岳ノートラックスキー山行に憩う

1月3日【山スキー】長谷川恵美子

余市天狗岳（872m）は積丹半島の基部に位置し、この山域では奥深いところにある山らしい。計画書によると、余市ダムから林道をたどり、途中370mくらいから稜線を目指す計画である。

道の駅スペース・アップルよいちに集合の後、余市ダム手前1kmくらいの除雪終了地点に車を置き、8:38に林道に入る。すぐに道は分岐するが、右は天狗岳東側にある丸山への道のようだ。

まもなく余市ダムを左に見て、さらに緩やかに林道は続く。時折現れる動物たちの足跡以外はまっさらな雪面。私たち以外だれもこの山にはいないことが妙に新鮮である。帰路は登り返しが予想されるところもある。

2時間ほど林道をたどり（写真①）、さらに分岐を左に進み、最終地点で沢の徒渉のためスノーブリッジを探す。かろうじて渡れそうなところを見つけたが、全員が徒渉するには不安が残る。結局418mのポコヘと針路を変え、そこから稜線を目指す。今までの緩やかな林道とは打って変わり、ここから急登が始まる。メンバーの力強いラッセルとルートファインディングの後に続き、12時過ぎに683mポコを巻いて稜線へと出た。

真っ青な空に、日本海や余市の町並み、名も知らぬ積丹半島の山並みが目に飛び込んでくる。振り返ると山頂。そこへ向かう雪面には、まばらに木が生えているが、「以前はこの時期には雪に埋まっていた」とつぶやくメン



バー。どこも年々雪は少なくなっているようだ。

最後の山頂への登り。大絶景の中、ラッセルを交代しながら真っ白い雪の急斜面をジグを切って登る（写真②）。13:15に細長い台地状の頂上に到着。三角点は向かって右側。長い4時間半の道のりだったが、達成感は大きい（写真③）。

急いで滑降モードへ切り替え、手早く準備をして真っ白なパウダーのオープン斜面に飛び込んでいく。下山の方が苦行の私は一足遅れて斜面に向かい、慎重に滑り始める。青空をバックにパウダーシャワーを浴びながら滑る仲間の姿は恰好よく、見惚れてしまう（写真④）。いつか、あんな風に滑ってみたいが、叶わぬ夢か。

683mと418mのポコをうまく巻きながら、登ってきた林道に出た。後は林道をたどるのみ。シールをつけて進むが、なかなか滑らない。途中からシールを外し滑る。ダム手前の複雑な地形になる前にシールをつけて、みんなの後を追う。単調な道すがら、今まで登った各地の天狗岳を思い出す。増毛天狗、錢函天狗、定山渓天狗、北大雪の白滝天狗…登っていない天狗岳も、まだまだありそうである。後で調べたら、全道で24もあった。

へとへとになったが、仲間のフォローで無事入山口に着くことができた。私のゴールは皆さんより遅れて15:56。今年ももう少し頑張れるかな?と思わせてくれた、厳しくも楽しい令和7年の初山行だった。

○参加者 CL 黒川伸一、SL 山内忠、佐藤正倫、高尾美緒、長谷川恵美子、三浦一恵、横山諒平

馬追丘陵（滝台）スノーハイキング

1月15日【スノーハイク】藤木俊三

年明けのスノーシューハイキングは馬追（まおい）丘陵を歩きました。今回も雪が少ないためスノーシューハイキングは使わず、軽アイゼン・ツボ足のスノートレッキングになりました。参加したのは会員・会友10人と三浦一恵会員の愛犬「エク」ちゃん（スタンダードプードル メス 1歳4ヶ月・写真左下）です。

長沼町の東側にある馬追丘陵は150～270メートルほどのピークが南北に連なる低山帯です。最高点は無名の275mのピークですが、ほぼ中央にある滝台（しずかだい）に273mの一等三角点（点名＝馬追山）があり、多くの登山者同様に私たちもここを目指して登りました。

丘陵には航空自衛隊の地対空ミサイルの基地があります。昭和40年代に自衛隊の合憲性が問われた「長沼ナイキ訴訟」の舞台となった基地です。登山道の一部はこの基地に隣接していて、ところどころに有刺鉄線が張られたフェンスが現れ、若干登山の興をそがれますが、昭和史の一ページを彩った場所だと思うと、別な感慨も湧いてきます。

午前9時45分に登山口の「馬追の名水」を出発、基地の南側を回り込むようにして急斜面を登って尾根の上に出ます。この日は天気に恵まれ、樹林の向こうには石狩平野が見えました。それにつけても、急斜面を勢いよく登るエクちゃんの健（犬？）脚には脱帽でした。

有刺鉄線のフェンスに沿って歩き、いったん林道に出てしまはうと進んでから再び尾根道に入りました。トドマツが植林されたアップダウンのある尾根を進み、左側に基地のフェンスが現れるとほどなく、立派な一等三角点のある滝台に着きます。出発から1時間45分ほどでした。

ここには、かつて天文測量に使われた大きなコンクリート製の「天測台」とその説明板、滝台の山名板と命名



の由来が書かれた看板などもあり、なかなかにぎやかな山頂です。そして基地のフェンスが山頂まで張り巡られ、その向こう側の山麓にはミサイルの発射台らしきものの見え、ここが国防の最前線であることを感じさせられました。

山頂でエクちゃんも入れて全員の記念写真を撮り（写真右上）、昼食を食べて12時10分に下山開始、帰りは途中から登りとは別の基地専用道路の下をトンネルでぐるルートを下り、ちょうど1時間で登山口に戻りました。

○参加者 L 藤木俊三、今田美知子、北川麻利子、峠原直美、橋本一郎、平田健三、藤原千恵、三浦一恵、藤原仁、山水秀美

北斜面から烏帽子岳を往復

1月21日【山スキー】黒川伸一

参加メンバー全員が烏帽子岳には登山道を使って何度も登っているが、厳冬期となると、なかなか大変である。さっぽろ湖（小樽内川）側に登路を取ると、過去に私自身、南斜面も西尾根も最後の斜面が急すぎて失敗しており、3人に相談して北面の貂の沢側からの登下降を想定し、平日山行として計画、実行した。

道道小樽定山渓線の通行規制（19時～7時は通行止め）を念頭に、7時のゲート開放に合わせて、集合場



所の道路情報館を1台に集約して出発するが、午前7時前、ゲート前は既に長い行列ができていた。大半は、さっぽろ湖のワカサギ釣り愛好者の車列と見受けた。

特に滝の沢大橋付近は釣り場スポットになっており、滝の沢林道起点の除雪帯は既に車で満杯になりかけている状況で、辛うじて駐車することができ、滝の沢林道を行く。

さらに貂の沢林道を行き、相談の結果、登路を山頂北西面に乗り上げる尾根を登路に使う（写真②）。尾根中ほどまでは積雪が少ないためブッシュが出ており、少々手こする。出発時には雲に覆われていたが、このころには青空が広がり、太陽が眩い。標高千㍍を超えると、雪や霧氷を被った広葉樹がキラキラ煌めき、北斜面ゆえの美しい景観に癒される（写真①）。

山頂稜線に上ると、白銀に輝く余市岳～白井岳の稜線が指呼の間にのぞめ、4人それぞれ、写真撮影に余念がない（写真③）。

大休止のあと、北斜面に突き上げる沢斜面を下降する（写真④）。上部はブッシュが頑かつたが、そのうちスキーで滑りやすくなる。そのまま貂の沢まで下降し、往路に使った林道を滝の沢大橋手前の除雪帯に下山した。私たちの隣に車をとめて、大橋下で釣りをしていたワカサギ釣りグループも除雪帯にほぼ同着したが、「4人でワカサギ400匹を釣った」と嬉しそうに話していた。

○黒川伸一、佐藤精久、高尾美緒、山内忠



岩見沢のスキー場でスキー講習会

2024年12月14日【講習会】黒川伸一

冬山シーズン本番を前にした12月14日、北海道の雪山登山で欠かせないスキー技術のブラッシュアップを目的に、岩見沢市郊外の岩見沢萩の山市民スキー場で「スキー講習会」を開いた。講師は昨シーズンに統一して、スキー指導員の資格を持つ小池修生会友とアルペンスキー選手だった渡部雅寿会員にお願いし、14人が生徒として参加、滑り技術の研鑽に励んだ。熱い指導をしていただいた小池さんと渡部さんには厚くお礼申し上げたい。

当初、萩の山市民スキー場は雪不足が懸念されたが、岩見沢では直前に大雪が降り、この日が1週間遅れでのオープン日。新雪斜面もあり、天気にも恵まれ、講習日和となった。

今シーズンは道内各地の主なスキー場で、リフトやゴンドラの利用料が軒並み値上がりし、中には1日券が1万円を超える中、萩の山市民スキー場は4時間券2400円、6時間券2800円。リーズナブルにスキー練習ができる、短いコースが横長に広がるこのスキー場は、札幌近郊では格好のスキー練習のゲレンデかもしれない。

2025年度北海道支部総会を5月25日に開催

2025年度 日本山岳会北海道支部総会

【日時】5月25日(日) 14:30-16:30(受付開始 14:00)

【会場】札幌エルプラザ 4 階 大研修室

札幌市北区北 8 条西 3 丁目 28

【議案】2024 年度事業報告・収支決算報告

2025年度事業計画・収支予算案、役員改選 他

【懇親会】 大庄水産 札幌・諏訪北海道ビル店（予定）

札幌市中央区北4条西4丁目1 読売北海道ビル2階

17:00- 会費：5,000円

向こう1年間の支部の活動方針、事業計画、予算等を決定する重要な会議です。4月中を目途に送付する議案書をお読みいただき、**5月16日**までに議案書に同封するハガキにて出欠等をご返信ください。

なお会友の皆様に議決権はありませんが、総会を傍聴できるよう準備いたします。懇親会にもご出席いただけます。

2025 積雪期の主な山行予定

- | | |
|-----------------------|---|
| 2月15日 (土) | ●無意根山、千尺高地 胡桃沢林道ルート【山スキー】 L: 佐藤精久 日帰り |
| 2月20日 (木)
～23日 (日) | ●羊蹄山・ニセコ周辺など【山スキー】 L: 橋本一郎
京極山荘泊 |
| 3月1日 (土)
～2日 (日) | ●幌別岳、寿都天狗山、観音山、写万部山など【山スキー】 L: 黒川伸一
黒松内ぶなの森自然学校泊 |
| 3月20日 (木・祝) | ●北白老岳 - 白老岳【スノーシュー】 L: 藤木俊三 日帰り |
| 3月28日 (金)
～30日 (日) | ●狩場山“内院”【山スキー】 L: 田中健
テント泊 *予備日3月31日(月) |
| 4月2日 (水) | ●塩谷丸山【スノーシュー】 L: 藤木俊三 日帰り |
| 4月4日 (金)
～6日 (日) | ●ニペソツ山【山スキー、氷雪】 L: 田中健
テント泊 *予備日4月7日(月) |
| 4月中旬 | ●群別岳・尾白利加山(奥徳富岳) or 【山スキー】 L: 黒川伸一 テント泊
浜益御殿・雄冬山・浜益岳 |

*先行や日程は変更になる場合があります。また随時山行を企画します。その都度MLや本紙などでお知らせします。

*実施日の1～2週間前までに、各リーダーまでお申し込みください。

北米アラスカ・デナリ(6190m)大縦走 伝説のルート初踏破報告会 2.11 締切

日本山岳会北海道支部では、当支部の会員でもある北大山岳部・山の会との共催、秀岳莊とりんゆう観光の協賛により「デナリ大縦走伝説のルート初踏破報告会」を2月18日に札幌・りんゆうホールで開催します。

昨年5～6月、日本の若手クライマー3人が、カヒルトナピークスからカシンリッジをへて北米最高峰、アラスカのデナリ（6190㍍）山頂に達する「デナリ南稜」の完全トレースを成し遂げました。今回は、その3人の中から、北大山岳部出身の竹中源弥さん（27）と信州大学山岳会出身の竹田昂さん（25）に、貴重な写真や動画を交えて、報告してもらいます。

「デナリ南稜」は、2008年に日本人パーティー2人がデナリ山頂直下まで踏破したものの遭難、2011年には花谷泰広さんと谷口ケイさんが挑むも悪天や雪崩に阻まれ、日本人クライマーにとって宿願となっていた難ルート。テントが半分浮くような不快なビバークに耐えつつ、10日間、毎日10時間以上のアイスクライミング、ミックスクライミングの末に、初めてこのルートからデナリ山頂に達して生還するという快挙を成し遂げました。

竹中さんは北大卒業後も札幌の社会人山岳会に所属して登攀スキルを磨いており、また、もう一人のメンバーであるカナダ在住の永山虎

デナリ大縦走 伝説のルート 初踏破報告会

【日時】2月18日(火) 18:30- (開場 18:00)

【会場】りんゆうホール（札幌市東区北9条東2丁目）

【定員】先着 100 名 【入場】無料

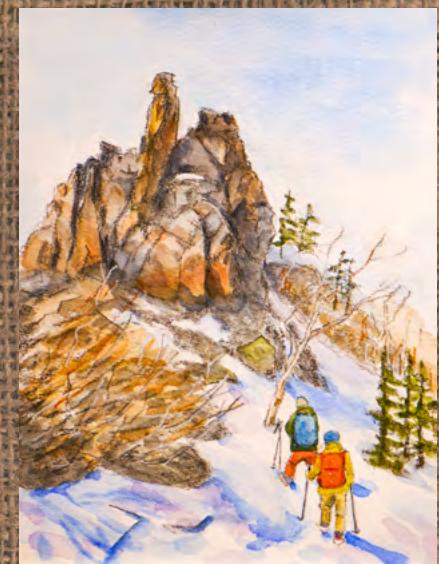
【申込方法】上記QRコードから 【締切】2月11日

【主催】日本山岳会北海道支部・北大山岳部・北大山の会

A collage of three images. The left image shows a wide view of a snow-covered mountain range with jagged peaks and patches of blue sky. The middle image is a close-up of a snowy mountain face with a climber visible on a steep, snow-covered slope. The right image shows a steep, snow-covered mountain face with a climber visible on a steep, snow-covered slope.



市毛三郎『駒ヶ岳黎明』



金子由美子『朝里岳 グレポン岩』



長谷川恵美子『フクロウ』

スケッチブック展



新妻徹『マチャプチャレ』



荒谷雅子『初秋の駒ヶ岳』



中沢友佑『菜の花畠と暑寒別岳』



新井田幸子『菜の花と山』



芳賀孝郎『マナスル 8168m』



芳賀淳子『アルバータ峰 3619m』